

鹿児島県の近代化産業遺産の価値について

尚古集成館 副館長 松尾 千歳さん

19世紀後半、産業革命に成功したイギリスなどの西欧諸国は、市場拡大と原料の輸入を目的にアジアへの進出を拡大していました。アヘン戦争で、アジア最大の国家とされていた中国(清)がイギリスに敗れたことから、琉球を統治下に置く

薩摩藩や長崎警備を担っていた佐賀藩などは西欧列強の進出を強く警戒し、軍備の近代化を図るようになりました。これが日本の近代化・工業化の第一歩でした。ただ、当時は鎖国体制下であったため、西欧で出版された専門書から得た知識を日本の技術と融合させて造り上げていくという手法が取られました。これは、他国に例をみない日本独特の手法で、西洋技術を日本の技術に置き換えて発展させていったことは日本の近代化の中で大きな意味を持っています。

佐賀藩に続き反射炉を完成させた薩摩藩は、幕府や他藩の近代化が軍事関係のものばかりで民需産業や社会基盤の整備がほとんど顧みられていなかったのに対し、紡績や出版・食品といった民需産業の育成、教育水準の向上や社会基盤の整備といった分野まで踏み込んだ近代化・工業化を進めました。

薩英戦争後は、西洋の進んだ技術や機

械が持ち込まれ、それまで独自に築き上げてきた技術と外国の最先端技術が融合されたことで日本の先端を行く事業が展開されていきました。ここで培われた技術は、その後、日本全国に広がっていきました。

西南戦争の際に集成館など多くの工場などが焼失しましたが、九州・山口の近代化産業遺産群は、世界的な動きの中で運動する他にはない歴史や文化を持つています。明治維新で活躍した鹿児島出身者が偉業を成し遂げたことは紛れもない事実ですが、それには鹿児島の歴史や文化という土台があったからこそだと思います。他には類を見ない歴史を持つ遺産群を少しでも多くの方々に知ってもらうとともに、遺産を活用した街づくりが進んでいくことも世界遺産登録を目指す目的の一つだと思っています。



「16世紀にヨーロッパの地図に初めて記載された日本の地名が鹿児島と言われています。それほど、当時の鹿児島は注目を浴びていたんですね」と話す松尾さん。

世界遺産登録までの手続き

九州・山口の近代化産業遺産群が世界遺産に登録されるためには以下の手続きが必要です。



◀関係の県・市で構成する「九州・山口の近代化産業遺産群」世界遺産登録推進協議会では、昨年7月に英国の「コーンウォールと西デボンの鉱山景観」など世界遺産3カ所の視察を行い遺産を活かした街づくりなどを学びました。





近代化産業遺産普及啓発・地域づくり事業を行っています

世界遺産登録に向けた取り組みを知っていただくとともに、登録に向けた気運醸成やまちづくりにつながる取り組みを促進するための普及活動をNPO法人との共生協働事業などで行っています。

語り部(コンシェルジュ)の育成

地元の方々をはじめ、鹿児島を訪れる方々に近代化産業遺産群についての確かな案内ができる人物の育成を目的とした育成講座です。
※今年度の講座は終了しています。



近代化産業遺産パネル展

九州・山口の近代化産業遺産群の世界遺産登録に向けた取り組みや、県内の遺産について紹介したパネル展。これまで近代化産業遺産や歴史に興味のなかった方々にも見ていただけるように鹿児島市内の商業施設などで開催しています。



パンフレットの作成

県内の関連遺産を中心に紹介する観光マップ「地図で見る鹿児島からはじまる近代化遺産ものがたり」を作成しました。

マップを手がかりに、磯周辺のまち歩きやちょっと知的なドライブを楽しんでみてはいかがでしょうか。



ミニ講座

パネル展と併せて開催されるミニ講座では、幅広い年齢層の方々に近代化産業遺産群を身近に感じてもらえるように、堅苦しさを感じさせないトークショー形式で実施しています。



◀西川さゆりさん(平成23年11月9日開催の「炭鉱文学と近代化遺産」受講者)
近代化を成し遂げる中で、労働者たちの文学資料に目を向けた講座は面白かったですね。日本の近代化が戦争によって発達してきたという歴史の中で、文学にも力を注いでいたという当時の人々のたくましさを感じました。



出張講演

近代化産業遺産に関する知識の普及を目的に、一般の方々や、児童・生徒などを対象とした出張講演を行っています。

一般の県民の方々や児童・生徒向けに親しみやすく、わかりやすい内容とするなど、それぞれのニーズや要請に応じた内容で実施しています。



●今後の開催スケジュール／場所 マルヤガーデンズ

※パンフレットやパネル展などに関しては下記までお問い合わせください。

パネル展

1月9日(月)～22日(日)

ミニ講座

1月 9日(月):午後2時～午後4時

1月14日(土):午後6時～午後7時30分

【問い合わせ先】

県庁世界文化遺産課 TEL 099(286)2364

■根占砲台跡(南大隅町根占)
1863(文久2)年に築かれた砲台跡。60mにわたって続く高さ3mの御影石の石垣には、大砲を据える場所が凹型に施されています。薩英戦争の際、発射する機会はありませんでしたが、錦江湾沿岸に数十の台場が構築されたなかで唯一原形をとどめています。



嘉例川駅



大隅横川駅

昭和2年に現在の鹿児島本線が開通するまでは、現在の肥薩線が鹿児島本線でした。肥薩線沿いには、今でも古い駅舎が残っています。県内では嘉例川駅と大隅横川駅が最も古い木造平屋建の駅舎で、1903(明治36)年の開業当時の様子をよく伝えています。

■JR肥薩線嘉例川駅、大隅横川駅駅舎(霧島市隼人町・横川町)

昭和2年に現在の鹿児島本線が開通するまでは、現在の肥薩線が鹿児島本線でした。肥薩線沿いには、今でも古い駅舎が残っています。県内では嘉例川駅と大隅横川駅が最も古い木造平屋建の駅舎で、1903(明治36)年の開業当時の様子をよく伝えています。



■旧曾木発電所本館(伊佐市)

そのほかの県内の近代化遺産